

十二月十八日

今日は朝から、色々と考えたい。これから五年位のことを。キルティプール計画は今日中に目途をつけよう。暗い鳥放送は時期尚早であった。今日打ち切りの相談をして、キルティプール計画に移し変えよう。しかし、何度読み直しても十六日付の菅原からのFAXレターはすぐれモノだな。無断でここに転載してしまおう。

石山さん

さつき電話いただいた時、家にいて幸いしました。コルトレーンのCD、どうも店にないと思っております。いいのそっくり自宅にありました。というのは、昨年暮の30日に「エルヴィン・ジョーンズ・ジャズマシーン」のメンバー全員がうちに来てメシ喰ったんです。それで（店の）レコード持っていくの面倒なんで、コルトレーンのCD全部家に持ち帰ったのであります。エルヴィンはじめメンバー全員が食後に本気になってこのCDを聴いたんです。これじゃ私、店で「ジャズ喫茶のマスター」やってるのと変らんじやないか・・・と冗談で思ったわけです。

しかし、これらのインパルス盤のコルトレーンはいづれも最高のものばかりで「ベイシー」でもいつもこのうちのどれかがかかっております。「レコード」ですけど。

「ライブ・アット・バードランド」の「アフロ・ブルー」は庄

巻。「ライブ・アット・ザ・ヴィレッジヴァンガード」のスピリチュアは美空ひばりのりんご追分け。みたいによつたりとして気分が落ち着くでしょう。

「ジョン・コルトレーン／トランジション」の「ディア・ロード」をお聴き下さい。死ぬのも怖くないという「愛」を感じる最高のバラードです。

「クレッセント」は、過激なこの頃のコルトレーンが登山の途中、ちよつと平らな場所に出たんで平たい石に腰を下ろし、片ひじついて下界を眺め、タバコにいつぶく火をつけているような（当時としては）心の平静を保った名演奏が聴けます。私の「オーディオ」の頂点はこの原盤LPレコードを最高の音で鳴らすことに他なりません。コルトレーンの音もいいですが、何といってもエルヴィン・ジョーンズの叩くトルコ製「K・ジルジャン」のシンバルの音が絶品！なのであります。

「デューク・エリントン／ジョン・コルトレーン」、これはコルトレーンがデュークと一緒にやった、たった一枚のアルバムです。さしものコルトレーンもこの日はキンチョーしたと思いますよ。

「ラブ・シュプリーム／至上の愛」、これはもう黙って身をゆだねるしかありません。「神」の領域でありますよ。

以上、コルトレーンだけ10枚、明日佐川急便にて「特急」にて送ります。

健さんが、どのアルバムの中のどの曲が気に入るかとは判りません。どれかに救いがありますよう。

菅原は人物風格とても私等の足許にも及ばぬまでに成熟したな。来春のネパール・キルティプール、カンボジア・プノンペン、ツアーワークシヨップは先ずキルティプールに入り、それからプノンペンが理想だろうか。ネパールの担当は安藤。カンボジアは松本。沖縄は太田。沖縄にジュニー、渋井さん等に来てもらうのは四月に入ってからだろう。ライター、李祖原も四月には東京に居るからそのほうが良い。年内に全てのスケジュールをFIXしたい。ホーム・ページにおおまかなスケジュールを今日出しておこう。スポンサーも用意したいなあ。今の日本ではむづかしいか。